

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民科	日本史A	2	1年1組～6組・8組～12組

使用教科書	副教材
『日本史A』(山川出版社)	『最新日本史図表』(第一学習社)

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。近現代の日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で大きく考えさせる。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察させることによって歴史の見方・考え方を身につけさせ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養うことをねらいとする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえ、公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 開国と明治維新	<ul style="list-style-type: none"> 開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて理解する。 	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	5		<ul style="list-style-type: none"> 開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 幕末における統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて理解する。 	
	6	第2章 立憲国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> 欧米の文化・思想の影響により日本を欧米諸国と同等の位置へ引き上げようとする一連の近代化政策がとられ、それが日本人の近代への覚醒をもたらしたことを理解する。 明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りを目指していった経過について考察する。 伝統的な文化の上に欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色について理解する。 政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の開始から立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成される過程を考察する。 立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 	
	7			

2	9	第3章 第一次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展にも着目して考察する。 ・近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。 ・伝統的な文化の上に欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色を理解する。 ・日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りとその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	10		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の政治動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえ考察する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などに関連させて理解する。 ・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解し、普選運動など政党政治の発展から政党内閣成立までの意義を理解する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、文化の特色を理解する。 	
	11	第4章 昭和の恐慌と満州事変	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。 ・社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。 ・恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部が台頭する過程を考察する。 ・日中戦争から太平洋戦争に至る過程について国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的国家体制の発展を考察する。 ・第二次世界大戦について、国家観の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前的惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 	
3	1	第5章 第二次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。 ・戦後政治の集大成となる日本国憲法の意義を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が集結し、日本が独立した意義を考える。 	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	2	第6章 占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・連合国による日本の占領が集結したこと、その後の日米関係の継続について様々な国の立場から考察する。 ・独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国などとの関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 	
		第7章 経済繁栄と保守長期政権 第8章 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などに着目して考察する。 ・消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。 ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、国際情勢の変化を踏まえて行った国内の政治対策について考察する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。